



効率性、柔軟性、ガバナンスの強化の視点でグループ経営を支えるICT統合基盤を実現

仮想化技術とブレードサーバ、ストレージシステムでICT統合基盤を構築

日清オイリオグループでは10か年にわたる経営基本構想GROWTH10を展開中で、特に2010年度までを「フェーズ」と位置づけ、さまざまな角度から事業を支える基盤を整備推進している。その中の「ICTインフラ環境整備」では、効率化(コスト削減)、柔軟化(リードタイム短縮)、ガバナンス強化などの観点で100台を超えるサーバを集約する「統合ICT基盤」を構築した。



日清オイリオグループ株式会社 情報システム部長 兼 ロジスティック部長 **田崎 龍一氏**
 当社の中期経営計画では、さまざまな角度から事業を支える基盤の整備が掲げられ、ICT環境においても、グループ経営を意識した基盤作りへと方向転換を進めています。業務要件の面では特に問題がなくても、サービスレベルのバラツキによる非効率の改善やHWの延命措置の必要性も高まってきました。今回の仮想化技術によるICT統合基盤が実現したことにより、グループ経営を支える情報システムの足場固めができたことを確信しております。

将来を見通したオープンな仕組みづくり

日清オイリオグループでは、経営基本構想「GROWTH10」の下グループ経営を意識したICT基盤の整備をすすめている。その要件としては、効率性(コスト削減)、柔軟性(リードタイム短縮)、ガバナンス強化が挙げられており、多数の老朽化サーバの対応も含め、平成21年2月にサーバリプレイスの受け皿として仮想化された統合環境を構築した。

ICT統合基盤の構築にあたっては、グループ会社すべてのユーザーに適正コストで良質なICTサービスを提供するための「基盤」の実現を目的に、今後発生する業務要件と技術要件の吸収と、特定ベンダに依存しないオープンな仕組み作りを方針として掲げている。

初期投資を抑えつつ高可用性を実現

同社のICT統合基盤はブレードサーバと共有ストレージシステムを中核として構成される。18台のブレードサーバ上に仮想化システムの「VMware」を搭載し、既存の100台を超えるサーバを移行中である。ブレードサーバは1台の待機系のサーバを複数のサーバで共有する「N+1構成」を採用し、可用性の高い信頼性が高く故障しにくい仕組みを安価で実現している。また、ストレージには、シンプロロジエミクスと呼ばれる仮想化アーキテクチャーを採用し初期投資コストをミニムに抑えている。これは、各システムには将来を見越して必要とする設計上のストレージ容量を仮想的に提供するが、物理的には現在

必要な最低限の容量に絞り込む技術で、HWの初期投資コストと設計コストを大幅に削減する。

基盤に必要な3つの要件を実現

これらの仮想化技術と製品を活用したICT統合基盤は、ITリソースを必要に応じて提供するプール化された状態であり、効率性、柔軟性、ガバナンスの強化の要件を実現している。

効率性の面では、ハードウェアの削減によるファシリティーや運用管理作業などのコスト削減効果のほか、標準化による構築や変更にかかる調達コストが大幅に削減される。柔軟性の面では、新たなニーズに対し、必要なリソースを即座に提供することが可能になることから、調達リードタイム短縮の効果が期待できる。

これらは、事業環境の急激な変化に迅速に対応するICT基盤として重要な要件である。

また、個々の要件で構築された従来のシステムではICT基盤の運用レベルの標準化は困難であったが、統合化することにより、構成設置、運用要件などの標準化が現実的となり、運用管理体制の統一も合わせてガバナンスの強化が実現できる。

ICT統合基盤を支える製品技術

同社のICT統合基盤の中核となるブレードサーバはイーシエナラ社(米国)の「BladeFrameEX」、ストレージシステムはアドラ社(米国)の「InServ StorageSystem」が採用された。これらは、同社が目指すICT統合基盤に現時点

では最も近いアーキテクチャーを保有する製品であると判断されたためであるが、他のメーカーからも同様の製品が発売されつつあり、今後ITインフラ市場の急速な拡大が予想される。

今回の構築にあたってはこれらの製品のほかに、運用管理ツールや現行環境から新環境に移行するためのツールなど、必要な技術や製品が多岐にわたっており、これをインテックと日清オイリオグループの情報システム会社である株式会社NSPと共同で取り組んだ。今後、運用保守はすべてNSP社が担当することになる。

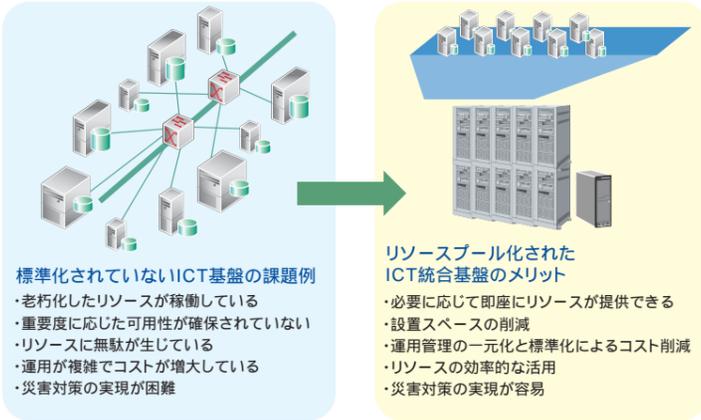
統一認証なども加えた統合基盤へ

日清オイリオグループでは、さらにICカードと連携したID管理の統合などの認証基盤の統一や、BCPに不可欠な災害対策などの検討もすすめられており、多角的にグループ経営を支える総合的なICT統合基盤の実現に向けて計画が進行中である。

日清オイリオグループ株式会社

取締役社長 / 大込 一男
 東京都中央区新川一丁目23番1号
<http://www.nisshin-oillio.com/>

国内シェアトップを誇る食用油の製造・販売を主たる業務としている食品メーカー。「おいしさ・健康・美」の追求を事業展開のコアコンセプトとして、食品をはじめ生活にかかわるさまざまな分野において「植物のチカラ」の可能性を広げ、製油事業、ヘルシーフーズ事業、ファインケミカル事業等を展開している。



株式会社NSP

代表取締役社長 **丸西 泰郎氏**

今回の日清オイリオグループのICT統合基盤構築は、当社とインテックさんが共同で作業をすすめました。プロジェクト開始から最初の稼働まで年末年始をはさんだ2カ月間という厳しい状況の中、予定どおり稼働できたのは、目標に向かって一体となって取り組めた成果と思っております。今後も両社の連携を密にして質の高い安定したICT基盤を提供してまいります。